

慶應義塾大学：吉田和夫
大成建設株式会社：芝山哲也、篠崎洋三、長島一郎
株式会社日立製作所：讃井洋一



建物外観（撮影：大成建設）

建築概要

建設地：東京都港区三田2-15-45
 建築主：学校法人慶應義塾
 設計：大成建設株式会社一級建築士事務所
 施工：大成建設株式会社東京支店
 竣工：2005年3月
 建築面積：2,125.38㎡ 延床面積：18,174.26㎡
 階数：地上11階、地下5階、高さ：48.3m
 構造種別：鉄筋コンクリート造（一部プレストレスト梁）

選評

慶應義塾大学三田キャンパス南館は都心部三田の丘に立地している。

本建物は法科大学院をメインとする建物で、全体のキャンパスの既存建物との環境的な調和を図りながら、全体として気持ちの良い教育研究のための建築空間が形成されている。

セミアクティブで免震構造を採用しているが、敷地が傾斜地であり、上下2つの接地面をもって、中間レベルに設けており、全体としてバランスの良い構造形態としている。

高層基準階はH型の壁柱コアにより、開放的な教育・研究空間の形成に成功している。

本建物は谷口吉郎教授とイサムノグチによる萬来舎のあったところに建てられたが、低層階屋上に再現され、その空間が継承されている。また屋上の広場のデザインは秀逸である。

立地における建築計画、環境デザイン的解決もすぐれており、全体に明るい雰囲気にもちた新しいキャンパスを出現しており、免震構造協会作品賞として評価できる。

（仙田 満）

免震化した経緯及び企画設計等

本建物は地上11階の高層部、2階の低層部および両者を繋ぐアトリウムから構成されている。免震構造の採用によりねじれ振動を抑えることによって、振動性状のことなる高層部と低層部を一体としアトリウムを構成するガラスファサードにEXP.Jを設けない計画を可能とした。

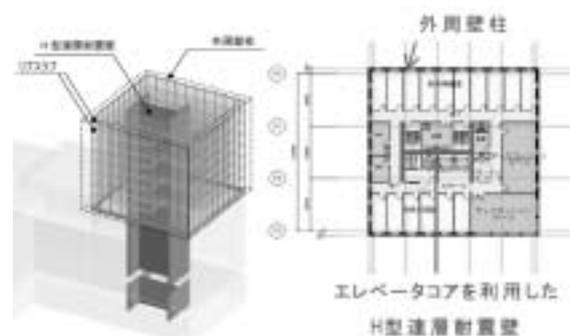
技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

高層部は中央コア部のH型連層耐震壁（壁厚400～700mm）に耐震要素を集約することにより、教員個室階を梁無しのプレストレスト・PCリブスラブ（リブせい450mm、スパン約9m）と壁柱（壁厚250mm）で構成し、階高3.3mにおいて柱型の無い快適な執務空間（2.55m×6.0m）を実現している。

免震システムはコンピュータ制御を取り入れたセミアクティブ免震を採用し、パッシブとした場合に比べて2割以上の加速度低減効果を得ている。コンピュータ制御の導入にあたっては、コンピュータの故障や停電などの異常状態を検知できるシステムを構築し、異常時にはコンピュータを自動的に非制御状態とすることによって耐震安全性を確保する計画としている。



エキスパンションの無いアトリウム空間（撮影：大成建設）



高層部H型連層耐震壁と外周壁柱